



明けましておめでとうございます。「クリスマス？それはとっくに終わって、さあ気持ちを切り替えて、「新年」！」なんて、思っていませんか。クリスマスに歌われる讃美歌「まきびと羊を」の3番『その星しるべに、みたりの博士ら、メシアを訪ねて、はるばる旅しぬ。喜びたたえよ、主イエスは生まれぬ』。この歌詞は「マタイによる福音書」の2章に書かれている出来事を歌っています。そして学者の様々な研究により、この出来事は、イエス様が生まれて一ヶ月ほど経った頃の出来事、と言われていいます。つまり、私達が、新年のお祝いムードもそろそろ抜けてきたころの出来事です。皆さんが誰かにプレゼントをもらったら、その時はもちろん嬉しいですが、そのプレゼントは何日たっても、眺めるに楽しく、使うのに嬉しく、そして人に見せたくなるもの。皆さんがこの世に生まれた日もそうです。もちろん生まれた日には皆が喜んでくれますが、「生まれました、はい、おしまい。」ではなく、「さあ、いよいよ、これからだわ！」と、特にご両親は思ってたはずでしょ。ましてやクリスマスは、イエス様が私達のために生まれてくださった日。クリスマスは、神様が私達にイエス様という喜びを下された日。感謝なことに数日前、私達は喜びのうちに主のご降誕をお祝いする恵みに与ることができたのですから、主はきっと2006年も、私達をあのクリスマスの喜びが絶えたり冷めたりすることなく過ごす年として下さること、と願います



1日<元旦礼拝>

教会は「祝・祭日のために礼拝もお休み」ということはありませんが、ちょうど今年は元旦が日曜日なので毎年の「元旦礼拝」を「主日礼拝」として行ないます。というわけで、教会学校も10時30分からです。

(この日は、9時からの礼拝はありません！)

1日<お誕生会>いつもの通り、礼拝の最後に、1月生まれのお友達のお誕生の祝福のお祈りとささやかなプレゼントがあります。



1月のメッセージの聖書箇所

聖書箇所	
1日	大人と合同の礼拝
8日	ルカ11:1~4
15日	マタイ6:9~13
22日	ペトロ2:11~12
29日	マルコ1:14~15

今月の御言葉

「主よ、あなたは御業を喜び祝わせてくださいます。わたしは御手の業を喜び歌います。主よ、御業はいかに大きく、御計らいはいかに深いことでしょう。」
詩篇 92:5,6